

一般社団法人 岩の力学連合会

平成 23 年度・第 2 回拡大常任理事会

議事録

日時	平成 23 年 7 月 29 日 11:00～14:00	場所	公益社団法人地盤工学会 会議室
----	------------------------------	----	-----------------

拡大常任 理事会	理事長	清水 則一	○	副理事長 (賞選考)	新 孝一	○	理事・幹事長 (海外連絡)	岸田 潔	○
	常任理事 (国際技術)	芥川 真一	×	常任理事 (電子 J)	石田 毅	●	常任理事	京谷 孝史	○
	理事 (RockNet)	坂口 清敏	○	理事 (編集)	蔣 宇静	○	常任理事 (企画)	船戸 明雄	○
	常任理事	山口 勉	○						○
	オブザーバー (地盤工学会 会総務部長)	木村 亮	○	オブザーバー (地盤工学会 会事務局長)	戸塚	○			

敬称略順不同, ○ : 出席, × : 欠席, ● : Web 出席, △ : 未回答

配 付 資 料

資料番号	資 料
資料 23-2-1	平成 23 年度・臨時理事会議事録(案)
資料 23-2-2	入退会報告
資料 23-2-3	海外連絡委員会委員名簿案および活動方針案
資料 23-2-4	Rock Net 委員会名簿
資料 23-2-5	地殻応力国際会議実行委員会企画書
資料 23-2-6	VP Video 請求書
資料 23-2-7	ISRM Council Meeting 2011 Agenda
資料 23-2-8	Rock Net 委員会活動報告
資料 23-2-9	電子ジャーナル活動方針
資料 23-2-10	電子ジャーナル委員会名簿
資料 23-2-11	ISRM 本部からの請求書
資料 23-2-12	岩の力学国内シンポジウム依頼状
資料 23-2-13	規則整理状況
資料 23-2-14	国際技術委員会名簿
資料 23-2-15	編集委員会名簿
資料 23-2-16	Application
資料 23-2-17	地殻応力国際会議実行委員会予算書

理事長挨拶

清水理事長より, 平成 23 年度, 24 年度の活動方針が示された. 内容は,

1. 法人としての運営の確立: 定款関連規則の制定, 経理方法の確立, 法人として必要な規約の検討を実施し, 法人としての運営の確立を行う.
2. 国際活動の活性化: 我が国のプレゼンスを国際舞台で示す必要がある. 主たる活動は, VP 選挙活動, ISRM の運営および TC 活動への人材の推薦およびそれらの活動支援, 国際会議の誘致運営等を積極的に実施していく.
3. 国内活動の充実: 会員サービスという観点から実施している事業の点検を行う. 会員サービスに向けたコンテンツの充実・提供をおこない, 会員増強を企画する.

の3大方針である。これらに沿った活動を実施していくことの要望がなされ、確認了解された。

議 題：

1. 前回議事録の確認 資料 23-2-1
臨時理事会の議事録の内容が示され、確認された。
理事会議事録であるので、次回理事会で承認を得たのちに、署名を頂く。内容は、既にメールで回覧済みである。

2. 退会願について 資料 23-2-2
東京電力株式会社：S058
東北電力株式会社：S056
東電設計株式会社：S057
中部電力株式会社：S005
新日建設コンサルタンツ株式会社：S076
 - 上記5社の退会届に関する対応の説明がなされた。現時点で慰留するのは難しい現状の報告がなされた。他の退会賛助会員がでないよう、再度会員サービスの点検を来ない、足元を固めることとする説明がなされた。
 - 上記5社の退会が承認された。
 - 2年以上の会費滞納者に関しては、定款に従い会員資格の停止とする。

3. 今年度の活動方針・各委員会の委員の選任 資料 23-2-3
 - 1) 海外連絡委員会 資料 23-2-14
 - 2) 連合会賞選考委員会 資料 23-2-9, 10
 - 3) 国際技術委員会 資料 23-2-4
 - 4) 電子ジャーナル 資料 23-2-15
 - 5) Rock Net 資料 23-2-13
 - 6) 編集委員会
 - 7) 企画委員会
 - 各委員会の活動方針・委員会候補の説明がなされた。
 - 各委員会員については、原案通り承認された。
 - 各委員会活動方針に対する意見交換・確認がなされた。
 - ・ 電子ジャーナル委員会は、J-Stage への掲載の検討を行うことが説明され、承認された。予算的な処置が必要な場合は、対応することとなった。
 - ・ Rock Net 委員会で管理しているデータベースと岩の力学の編集について、情報共有の観点から合同の連絡会を開催することとなった。電子ジャーナル委員会も合同連絡会に参加する。それらの会議を踏まえ、データベースの充実を行い、会員サービスの向上を目指す。また、ISRM の論文検索システムへのリンクを行うなど、国際会員としてのサービスも受けやすい環境を整える。
 - ・ Rock Net のコンテンツの更新は、本日の会議で各委員会メンバーが承認されたので、それらの内容を反映した形で実施する。また、Rock Net 上の理事長挨拶、定款、賛助会員の整理、アップデートを速やかに実施する。
 - ・ 岩の力学ニュースに関して、記事投稿を行えるのは会員であるが、連合会の広報誌として、非会員にも Rock Net を通じて公表する。ただし、公表するための著作権の問題などを明確にする必要がある。この点は、編集委員会で対応を行う。
 - ・ 規約の整備、基金運用の規約の確認等を行うこととなった。まずは、常任理事会および拡大常任理事会の運用規則の整備を行う。併せて、総務に関連する委員会の常設の検討を行い、会務の継続的な運営について検討を行う。企画委員会で原案を作成する。
 - ・ 1月の拡大常任理事会では、各委員会の次年度の活動計画とそれに対する予算案の

提出をお願いし、それらを積み上げて実際の予算案の作成を行う。

- ・ 未制定の各種規則については、優先順位を検討し順次制定する。企画委員会が実施する。

4. 地殻応力国際シンポジウム組織委員会について

資料 23-2-5, 16, 17

- 1) 組織委員長の選任
- 2) 委員の選任
- 3) 予算について
 - 計画案、組織委員長、組織委員会メンバー、予算についての説明が坂口理事よりなされた。
 - 組織委員長は、伊藤理事（東北大学）とすることで承認された。
 - 組織委員会のメンバーは、提案通り承認がなされた。
 - 予算案に関しては、予算案の収入の部に記載されている本会からの助成金を貸付金とし、貸付金の返済を項目として支出案に記載し、この会議の中で収支バランスがなされるように修正する方向で意見が出され、次回拡大常任理事会に提出されることとなった。
 - 上記のように修正することを前提に実行委員会の今年度の予算案は承認された。予算額は、原案通り 770,000 円とする。この額を連合会の校正予算に組み込み、10月の理事会に提出するが、活動は速やかに開始する。
 - ISRM に提出する Application Form の説明がなされた。参加費の記載をドル表記ではなく、円表記で行う。ISRM 事務局長に確認し、提出を行う。実行委員会で原案を修正し、幹事長が ISRM 事務局長に連絡をする。
 - 併せて、ISRM 事務局長に10月の Congress Council Meeting での会議案内の可能性を確認する。幹事長が行う。

5. ISRM VP 選挙への対応

・ Video 作製費 (50,350 円, アルバイト代 6,000 円)	資料 23-2-6
収入	
VP 選挙対策費 (創造的活動基金の取り崩しによる)	500,000 円
支出	
ビデオ作成費 (ビデオファクトリー社)	50,350 円
謝金 (ナレーション録音)	6,000 円
小計	56,350 円
収支差額	443,650 円

- ・ 投票依頼, Japan Night
 - VP 選挙用のプロモーションビデオの作成と予算執行状況の説明がなされ、原案通り承認がなされた。
 - 投票がどの段階でどのように行われるのかは、理事長が過去の会議参加者に確認を行う。
また、北京での Agenda では、投票が議題に入っているが、実際にどのように投票するのか、上記理事長の確認後 ISRM 事務局長に確認する。
 - Japan Night や昼食会の実施は、現場の状況を見て対応する。

6. Congress への対応

資料 23-2-7

- 送付されてきた Agenda の紹介がなされた。
- 対応については、詳細に資料が送られてから拡大常任理事会を開催し、対応を検討する。
- 会費の値上げに関しては、国内の経費の値上げに連動するので、会費の値上げに見合う

理由、会員サービスの向上などを確認したうえで承認することとする。

7. ISRM への会費納入・未収金問題

資料 23-2-11

- ▶ 長期未納者を定款に従い会員資格停止としたため、損失（未収金）が発生することとなる。この会計上の取り扱いについては、公認会計士と相談して対応を行う。
- ▶ 未収金に関しては、回収や責任を問うことはしないことが確認された。
- ▶ 今後、同種の問題が発生しないようにするため、次のような対応をする。会費納入の案内は、従来通り7月頃に行い、未納者に関しては12月頃再度督促を行う。1年間未納者に関しては、次年度に配本の停止、ISRM 会費の支払いの停止を行う。2年目は、滞納分の督促と会に納入の案内を通常期と12月に行う。2年間の会費未納が確認されれば、定款に従い会員資格の停止とする。

8. 岩の力学国内シンポジウム

資料 23-2-12

- ▶ 国内シンポジウムの実行委員の推薦状の紹介がなされた。
- ▶ 第13回は土木学会が幹事学会である。
- ▶ 土木学会には実行委員長、実行委員2名、幹事長の推薦を依頼する。また、他の学会には2名の実行委員の推薦をお願いする。
- ▶ それに沿った形で依頼状を修正する。内容の確認は、メールにて行う。
- ▶ 幹事会の編成は、実行委員会に一任する。
- ▶ シンポジウムの予算を計上するために、次回理事会までに実行委員会に予算案を含めた計画書を依頼する。

9. KSRM30 周年記念シンポジウムへの派遣について

- ▶ 清水理事長より、韓国の岩盤工学会（KSRM）から30周年記念シンポジウムに日本から2~3名のスピーカーを招待したいとの申し入れの紹介がなされた。
- ▶ 地殻応力の国際会議を開催することから、伊藤理事を推薦する方向で調整する。
- ▶ 招待の申し入れに対して、回答することとし、人選は理事長に一任する。

10. 公益社団法人地盤工学会との事務業務に関する意見交換

- ▶ 公益社団法人地盤工学会木村総務部長、戸塚事務局長と本会の事務業務に関する意見交換がなされた。
- ▶ 本会は、定款に公益会計基準に従って実施すること、事務局員を雇用することが記載されており、現在の地盤工学会との一括契約では、法人として不適切な対応となっている。
- ▶ 会計処理等については、地盤工学会の公認会計士と幹事長が協議を行う。
- ▶ 本会の事務局は、地盤工学会内に設置し事務スペース使用料・会議室使用料など個別に契約を行い、会計を明確にする。
- ▶ 事務作業や会計処理に従事する事務職員（アルバイト職員）を雇用することとする。週三回程度とする。なお、事務職員の管理、指導は地盤工学会事務局に協力を求める。
- ▶ 本年10月1日を目途に、体制を整える。

11. その他

- ・ 総務委員会の設立の必要性。
企画委員会で検討を行う。
- ・ 拡大常任理事会と理事会の同時開催について。
同じ内容で会議を行っており、理事会開催時には拡大常任理事会は開催しない。
- ・ 会員勧誘、海外協力の強化について。
冒頭のあいさつで、理事長より活動方針のなかで触れられており、その方針に沿って実施する。
- ・ 定款では「定時社員総会の終結後遅滞なく、法令の定めるところにより貸借対照表を公告する(定58-3)」と定められており、速やかに対応する。

報告事項：

1. ISRM Session Chair Nominate

ISRM より北京の Congress の座長の紹介が来ており，伊藤理事（東北大学）と安原会員（愛媛大学）を推薦したことが報告された。

2. 活動報告

2.1 海外連絡委員会

- ・ 理事長名等の本部への報告
- ・ 第7回 ARMS（ソウル）の案内の廻覧

2.2 Rock Net 委員会

資料 23-2-8

以上

次回：

拡大常任理事会：Agenda 到着後日程調整を行う。

第2回理事会：平成23年10月7日(金)14:00から JGS 会館（予定）